

< 小田原市地域経済振興戦略ビジョン策定委員会 会議録 >

会議名	第8回 小田原市地域経済振興戦略ビジョン策定委員会	
日時	平成24年1月18日(水) 16時~17時20分	
場所	清閑亭(南町1-5-73)	
議題	1 地域経済振興戦略ビジョン(案)について 2 今後の推進体制について	
資料	資料1 小田原市地域経済振興戦略ビジョン(案) 資料2 小田原市地域経済振興戦略ビジョンに基づく推進体制(案)のイメージ	
出席者	委員	畠山委員長、栗田副委員長、岩田委員、荻野委員、金井委員、神山委員、工藤委員、鈴木委員、露木委員、平井委員、前田委員、長谷川委員 ※磯崎委員は欠席
	事務局	産業政策課：露木課長、鈴木副課長、石井産業政策係長、加藤主任 説明員 産業政策課：津田副課長、観光課：飯田副課長、農政課：武井副課長、水産海浜課：佐藤副課長

1 地域経済振興戦略ビジョン(案)について

資料1に基づき事務局(加藤主任)が説明

⇒ 前回意見の反映や新たな追加、修正を行った案の内容について、以下のとおり主な意見や修正点等が示された。

○【2 ページ】他の計画や指針等との関係でいうと、現在検討している文化振興ビジョンも、地域経済の活性化に寄与するということが謳われており、また、本ビジョンで重点施策として掲げた「文化観光」とも関連があることから、例示の1つとして挙げるべきである。

○【14 ページ】基本方針では、「持続可能なかたちで小田原をブランド化していく」としているが、今あるブランドも含め、みんなで守り、育てていくというニュアンスも盛り込むべきである。

○【23 ページ】「まちあるき検定」の取組みは、小田原箱根商工会議所だけではなく、他の団体も実施のための協議会に入って行っているため、反映させるべきである。

⇒ いずれも反映させる方向で検討し、必要に応じて、内容を委員長と調整することとなった。

2 今後の推進体制について

資料2に基づき事務局(加藤主任)が報告

⇒ 現在調整を進めている今後の推進体制について、以下のとおり主な意見等が示された。

○意見交換も行った先進事例である箱根プロモーションフォーラムは、内部のグループが有機的な連携をしており、小田原の場合も、推進会議と(仮)プロモーションフォーラムが有機的に連携するような仕掛けをするべきである。

例)・(仮)プロモーションフォーラムのコアメンバーを推進会議のメンバーに加え、連動を図れる体制とする。

・(仮)プロモーションフォーラムのコアメンバーに本策定委員会の委員を入れ、常に本ビジ

ヨンのエッセンスを意識しながら活動できる体制とする。

- 岩田委員（JTB）や工藤委員（横浜銀行）、前田委員（近畿日本ツーリスト）のような、外からの視点でご意見をいただくために委員となっていた方々とも、事業の構築・実施に向け、（仮）プロモーションフォーラムに入っていたなど、密接な関係を保つべきである。
- （仮）プロモーションフォーラムの構成も、コアメンバーに完全に委ねるのではなく、ある程度の検討が必要ではないか。
 - ・大企業などのいわゆる企業市民にも何らかの形で関わってもらえるような仕掛けがあると、より良いネットワークが築けるのではないか。
 - ・マスコミ関係者を入れて、地域内外への情報発信を図るための戦略、ストーリーを立てて、実際に発信していくべきである。
 - ・イベントを含め、横の連携を図るための場としても機能する構成にしていくことも望まれる。
- 当初から積極的に取り組んでいかないと、この体制自体が成り立たなくなってしまう可能性がある。
 - ・まずは、ここで何をやっていくのかという合意形成をすべきである。
 - ・市がある程度主体的に、リーダーシップを発揮して取り組むべきである。
 - ・スタートダッシュとして、目玉となる、今後の呼び水となる事業を早々に実施すべきである。
- このようなことを具現化していくために、（仮）プロモーションフォーラムに対して、市は一定程度の補助金を交付することも考えるべきである。

⇒ 今回出された意見も参考に、市として、今後の推進体制をさらに検討、調整することになった。

3 その他

- 地域経済振興戦略ビジョン策定委員会としては今回が最終回
- 今後のスケジュール：庁内の手続きを経て策定

以上